

第4章 インド —近年におけるコメの輸出動向—

草野 拓司

1. はじめに

インドは 1960 年代後半までにたびたび大飢饉を経験し、多数の犠牲者を出してきたことから、食料の自給が政府の最大の目標であった。そして、化学肥料、電力、灌漑（特に管井戸）への農業投入財補助金が効果を示し、1970 年代後半には「緑の革命」に成功し、穀物の自給を達成した。その後も価格政策や投入財政策などを背景にしたコメや小麦の増産が続き、2010 年代半ば以降は世界一のコメ輸出国になった。

このように、インドは世界最大のコメ輸出国であることに加え、コメの貿易率が低く国際価格の変動が激しいことから、我が国にとっても無視できない状況である。加えて、インドによるコメの輸出は単一的なものではなく、品目が多く、輸出先国も品目によって大きく分かれるが、それについて詳しくは知られていない。

そこで本稿では、インドによるコメ輸出の動向を知るため、特にコメの各品目と輸出先国の関係について整理することを目的とする。以下、2 節では例年のカントリーレポート同様、主要農産物の近年の需給動向を簡単に整理する。3 節では最初にインドの貿易全般を概観する。その後、コメの輸出に焦点を当て品目別の輸出先国・地域について整理する。4 節でまとめを行う。

2. 主要農産物の需給動向

(1) 主要穀物

1) コメ

2024/25 年の生産量は、前年度より 718 万トン増収の 1 億 4,500 万トンと推測されており（第 1 表）、増産基調に変わりないといえるだろう。世界全体の 27% を占めており、依然として影響力は大きい。

同年度の消費量は前年度より 460 万トン増の 1 億 2,100 万トンと推測されている。自給率は 120% であり、消費量に対する安定した生産量が維持されていることが分かる。期首在庫も 4,200 万トンと推測されており、安定した供給量が維持されていると言える。

以上のように安定した供給量を維持しているものの、インド政府は 2022 年 9 月に碎米、2023 年 7 月にバスマティ米・パーボイルド米以外の精米の輸出を規制した。これらにより、2023/24 年の輸出量は前年度比で約 29% 減の 1,443 万トンとなった。その後、2024 年 9 月に輸出規制を解除したことにより、2024/25 年の輸出量は、前年度より 707 万トン増

加して2,150万トンになると推測されている。2023/24年の世界における輸出量の割合は25.5%であったが、2024/25年は37%まで増加すると推測される。これに伴い、ベトナム（13.4%）、タイ（13.2%）を大きく上回り、依然として国際的にも大きな影響力を持つこととなる。

第1表 コメの需給（精米ベース）

単位：1,000ヘクタール，1,000トン，単収はトン/ヘクタール

	2019/20	2022/23	2023/24	2024/25
収穫面積	43,662	47,832	47,828	50,000
期首在庫	29,500	34,000	35,000	42,000
生産量	118,870	135,755	137,825	145,000
輸入量	0	0	0	0
総供給量	148,370	169,755	172,825	187,000
輸出量	12,520	20,245	14,429	21,500
消費量	101,950	114,510	116,396	121,000
期末在庫	33,900	35,000	42,000	44,500
単収	4.1	4.3	4.3	4.4

資料：USDA PSD Online(2025年1月1日参照)。

2) 小麦

インドではコメに次いで重要な穀物である小麦の2024/25年の生産量は前年度から274万トン増で、1億1,329万トン超と推測されている（第2表）。2016/17年には不作だったものの、以降は安定した増産基調が続いていると言える。

2024/25年の消費量は前年度より10万トン減の1億1,224万トンと推測される。自給率は101%である。新型コロナウイルス感染症により、中央政府が無償で大量の小麦を支給したことにより、2023/24年の期首在庫は前年比で大きく減少していた。その影響を受け、2024/25年はさらに減少して750万トンとなったものと推測される。

コメと比べると小麦は気候の影響を受けやすく、生産がやや不安定なため、インドはたびたび輸入と輸出を繰り返してきた。近年では、2016/17年と2017/18年に小麦の純輸入国であったが、2018/19年以降は純輸出国となっている。ただし、2022年5月の輸出規制に伴い、2023/24年以降、ほとんど輸出はない（2023/24年は34万トンであり、2024/25年は25万トンの見込み）。国内における安定的な穀物供給を徹底してきたインド政府の方針がこの背景にある。

3) トウモロコシ

近年、粗粒穀物の中で最も重要な位置づけにあるのがトウモロコシである。家禽用飼料^{かきん}や工業用への国内需要が増加しており、生産量も堅実に増加してきた。単収もより優れたハイブリッド品種により増加している。収穫面積も拡大しており、2000年代初期は660万ヘクタールであったが、近年は1,000万ヘクタールを超えている（第3表）。こうして近年

の生産量は増加基調で、2024/25年は前年度より34万トン増加し、3,800万トンと推測される。

消費量も過去20年、家禽用飼料やでんぷんとしての利用が増加したことにより増加している。2024/25年は前年度比で3.2%増の3,910万トンとなり、自給率は97.2%と推測される。総消費量に占める飼料用消費量の割合は60.9%であり、近年の高止まりの傾向が続いている。インドでは伝統的に粗飼料が利用されることが多く、より栄養価の高いトウモロコシの利用は依然として十分ではないため、トウモロコシへの潜在的な需要が大きいと考えられている。そのため、さらなる増産が求められる状況にあると言えるだろう。

第2表 小麦の需給

単位：1,000ヘクタール，1,000トン，単収はトン/ヘクタール

	2019/20	2022/23	2023/24	2024/25
収穫面積	29,319	30,459	31,401	31,833
期首在庫	16,992	19,500	9,500	7,500
生産量	103,600	104,000	110,554	113,292
輸入量	20	42	126	200
総供給量	120,612	123,542	120,180	120,992
輸出量	509	5,377	338	250
消費量	95,403	108,665	112,342	112,242
期末在庫	24,700	9,500	7,500	8,500
単収	3.5	3.4	3.5	3.6

資料：USDA PSD Online(2025年1月1日参照)。

第3表 トウモロコシの需給

単位：1,000ヘクタール，1,000トン，トン/ヘクタール

	2019/20	2022/23	2023/24	2024/25
収穫面積	9,569	10,744	11,241	10,800
期首在庫	1,344	2,395	2,658	2,823
生産量	28,766	38,085	37,665	38,000
輸入量	318	0	900	500
総供給量	30,428	40,480	41,223	41,323
輸出量	1,384	3,122	500	300
消費量	27,200	34,700	37,900	39,100
うち飼料用消費量	16,000	20,600	22,900	23,800
うち食料・種子・工業用途の消費量	11,200	14,100	15,000	15,300
期末在庫	1,844	2,658	2,823	1,923
単収	3.0	3.6	3.4	3.5

資料：USDA PSD Online(2025年1月1日参照)。

(2) 畜産業

1) ミルク

2024年度の生産量は、前年度比2%増の2億1,170万トンと推測される(第4表)。そのうち48%に当たる1億100万トンは牛乳、残りの52%に当たる1億1,070万トンはその他(ほとんどは水牛乳)となっている。牛乳、水牛乳いずれも増加が続いており、総生産量は、2019年度比で11%増となり、ミルクの供給量は安定している。

消費量をみると、2024年度は前年度比2.2%増の2億1,168万トンと推測される。人口増加と所得向上などにより、ミルクの消費量は右肩上がりが増加が続いている。とはいえ、自給率は依然として100%を維持している。

第4表 ミルクの需給

単位：1,000トン

	2019	2022	2023	2024
乳牛頭数(1,000頭)	54,600	59,500	61,000	61,500
生産量	191,000	202,500	207,100	211,700
うち牛乳生産量	92,000	97,000	99,000	101,000
うち他ミルク生産量	99,000	105,500	108,100	110,700
輸入量	0	0	0	0
総供給量	191,000	202,500	207,100	211,700
輸出量	14	14	16	20
消費量	190,986	202,486	207,084	211,680
うち飲料用消費量	79,000	85,000	87,050	89,000
うち工場用消費量	111,986	117,486	120,034	122,680
うち飼料用消費量	0	0	0	0

資料：USDA PSD Online(2025年1月1日参照)。

2) 水牛肉及び牛肉

人口増加と堅調な輸出需要により、2024年度の水牛肉及び牛肉の生産量は前年度比2.1%増の457万トンと推測されることから、若干の増加傾向にあるといえる(第5表)。インドにおけるほとんどの州は、宗教的な理由で牛(水牛は含まない場合もある)のと殺を制限するか禁止しているため、生産量の大半は主に酪農部門からの廃用水牛のと殺に依存している。

水牛肉及び牛肉の消費量をみると、2024年度は前年度比2.5%増の299万トンと推測される。なお、第5表には示していないが自給率は依然として高く、前年度とほぼ変わらず、153%である。国内生産量が消費量を大きく上回っており、生産量と消費量のギャップの多くが輸出に向けられた結果、158万トンが輸出されたと推測される。これは世界の輸出量の12%に当たり、インドはブラジル、オーストラリアに次いで世界第三位の牛肉輸出国となっている。

第5表 牛肉の需給

単位：1,000 トン（枝肉ベース）

	2019	2022	2023	2024
期首在庫	0	0	0	0
生産量	4,270	4,350	4,470	4,565
輸入量	0	0	0	0
総供給量	4,270	4,350	4,470	4,565
輸出量	1,494	1,442	1,552	1,575
消費量	2,776	2,908	2,918	2,990
期末在庫	0	0	0	0

資料：USDA PSD Online(2025年1月1日参照)。

3. コメの輸出における品目と輸出先国の関係

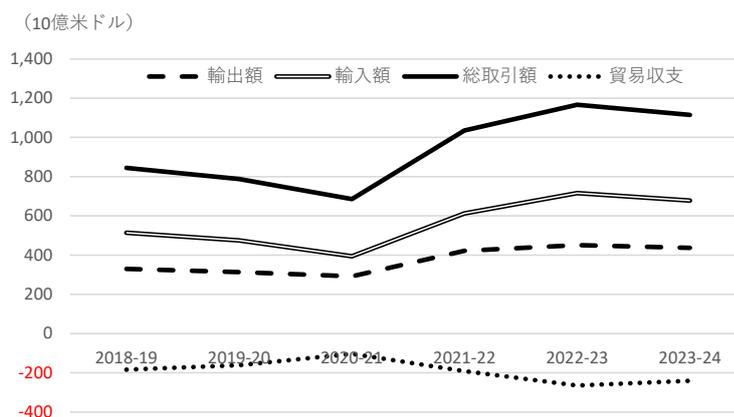
以上のように、インドは世界最大のコメ輸出国であることに加え、コメの貿易率が低く国際価格の変動が激しいことから、我が国にとっても無視できない。そこで本稿では、インドによるコメ輸出の動向を知るため、特にコメの各品目と輸出先国の関係について整理することを目的とする。

(1) 貿易概況

最初に、コメの輸出動向をみる前に、JETRO (2024)などを参考にしつつインドの貿易概況を整理する。

1) 貿易収支等

第1図で貿易収支等をみると、2023/24年では、輸出が前年度比3.1%減の4,371億米ドル、輸入は5.3%減の6,782億米ドルとなり、いずれも過去最高額となった前年から減少した。貿易収支は2,411億ドルの赤字で、赤字幅は前年から238億ドル減少した。2018/19年以降、輸入額が輸出額を上回っており、貿易赤字が続いている。



第1図 インドの貿易収支等

資料：Government of India, Ministry of Commerce and Industry, Department of Commerce ホームページより筆者作成(2025年2月4日参照)。

2) 貿易先の地域・国

次に第6表で地域別の輸出額をみていこう。2018/19年以降北米が最大であり、2023/24年には全体の19.8%を占める867億ドルとなっている。そしてEU、西アジア(GCC)、アセアン、北東アジアが続く。ただし、北米、EU、西アジア(GCC)への輸出額は着実に伸びているが、アセアンや北東アジアへの輸出額の伸びは鈍化している。一方で、西アフリカや東アフリカをはじめとするアフリカ地域への輸出については、割合で見ると依然としてそれほど大きくはないが、近年は増加傾向にあるとみることができる。

第6表 インドによる地域別輸出額

単位：100万米ドル，%

地域	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24	
						(割合)	
北米	59,099	59,564	57,671	84,356	87,849	86,685	19.8
EU	47,863	44,991	41,360	64,964	74,837	75,925	17.4
西アジア (GCC)	41,622	40,466	27,759	43,932	51,306	56,323	12.9
アセアン	37,474	31,547	31,486	42,328	44,000	41,208	9.4
北東アジア	41,979	38,651	42,120	49,301	39,992	38,353	8.8
南アジア	25,349	21,941	22,078	34,229	28,027	25,624	5.9
その他欧州	14,947	13,893	12,306	19,392	21,516	20,939	4.8
南米	9,741	10,059	10,104	14,934	17,705	14,503	3.3
西アフリカ	7,698	8,177	9,450	13,565	17,726	12,840	2.9
その他西アジア	10,761	10,660	7,706	10,805	16,458	11,852	2.7
東アフリカ	7,378	6,636	5,785	8,265	11,072	11,404	2.6
SACU	4,378	4,412	4,222	6,608	8,916	9,301	2.1
東アジア (オセアニア)	4,024	3,359	4,667	8,935	7,711	8,685	2.0
北アフリカ	5,889	5,441	4,808	7,133	8,347	7,211	1.6
その他CIS	3,024	3,722	3,400	4,030	3,763	4,873	1.1
その他南アフリカ	1,856	2,868	1,936	2,970	3,566	3,090	0.7
中央アフリカ	1,342	1,456	1,533	1,678	1,571	1,493	0.3
その他	5,654	5,516	3,419	4,582	6,707	6,766	1.5
総額	330,078	313,361	291,808	422,004	451,070	437,072	100.0

資料：第1図と同じ。

続いて第7表で輸出先国上位10か国をみると、米国、UAE、オランダ、中国、シンガポールと続く。米国は11年連続で最大となっている。インドは多くの国々に対して貿易赤字であるが、米国に対しては黒字である。主要な輸出品目は医薬品・精製化学品、宝石・宝飾品、機械・器具などである。第二位のUAEへの輸出では、宝石・宝飾品や輸送機器が大きく増加した。なお、輸出総額に占める上位10か国への輸出額の割合は51%となっている。

第7表 インドの輸出先国(上位10か国)

国	100万米ドル, %	
	2023/24	
	輸出額	割合
米国	77,515	17.7
UAE	35,625	8.2
オランダ	22,367	5.1
中国	16,659	3.8
シンガポール	14,414	3.3
英国	12,923	3.0
サウジアラビア	11,559	2.6
バングラデシュ	11,066	2.5
ドイツ	9,840	2.3
イタリア	8,766	2.0

資料：第1図と同じ。

次に第8表で地域別の輸入額をみると、2018/19年以降北東アジアが最大であり、2023/24年には全体の25%を占める1,693億ドルとなっている。そして西アジア(GCC)、アセアン、その他CISが続く。

第8表 インドによる地域別輸入額

地域	単位：100万米ドル, %						2023/24 (割合)
	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24	
	北東アジア	122,426	114,347	108,146	151,805	162,784	
西アジア(GCC)	79,716	80,465	59,589	110,723	133,248	105,498	15.6
アセアン	59,321	55,370	47,421	68,081	87,577	79,664	11.7
その他CIS	8,580	9,588	8,327	13,601	47,672	61,856	9.1
EU	50,863	45,041	39,716	51,406	61,055	61,485	9.1
北米	44,642	43,997	34,420	50,695	58,899	49,853	7.4
その他西アジア	39,016	27,864	17,711	37,567	39,934	34,327	5.1
南米	20,547	17,075	12,479	21,738	21,923	21,232	3.1
東アジア(オセアニア)	13,914	10,403	8,790	17,539	20,181	16,996	2.5
その他欧州	10,021	8,906	6,447	9,061	13,198	12,229	1.8
SACU	7,555	7,749	8,111	11,775	10,900	11,244	1.7
西アフリカ	20,084	17,238	11,731	22,159	18,198	11,219	1.7
その他南アフリカ	5,643	5,341	2,644	4,731	6,315	6,135	0.9
南アジア	4,363	3,836	3,377	5,486	5,446	5,171	0.8
北アフリカ	5,728	5,552	4,300	7,554	7,374	4,253	0.6
東アフリカ	1,550	1,436	1,281	2,809	3,064	3,928	0.6
中央アフリカ	554	377	113	292	799	1,164	0.2
その他	19,555	20,125	19,833	26,030	17,400	22,658	3.3
総額	514,078	474,709	394,436	613,052	715,969	678,215	100.0

資料：第1図と同じ。

輸入元上位 10 か国は第 9 表のとおりである。最大は中国で、全体の 15%を占める 1,017 億ドルとなっており、20 年連続の首位となった。主要な輸入品目は一般機械、電子部品、コンピュータハードウェア・周辺機器などの工業品である。第二位のロシアは原油の輸入が大幅に増加したことで前年の第四位から浮上した。その影響もあり、UAE、サウジアラビアなど西アジアの産油国は順位を落とした。なお、輸出総額に占める上位 10 か国への輸出額の割合は 59%となっている。

第 9 表 インドの輸入元国（上位 10 か国）

単位：100万米ドル，%

国	2023/24	
	輸入額	割合
中国	101,736	15.0
ロシア	61,159	9.0
UAE	48,026	7.1
米国	42,195	6.2
サウジアラビア	31,416	4.6
イラク	29,961	4.4
インドネシア	23,411	3.5
スイス	21,248	3.1
シンガポール	21,199	3.1
韓国	21,135	3.1

資料：第 1 図と同じ。

3) 貿易品目

ここでも、JETRO（2024）を中心に貿易品目を紹介する。

輸出を品目別にみると、石油製品、機械・器具、宝石・宝飾品、医薬品・精製化学品と続く（第 10 表）。第七位となった電子通信機器が最も大きな伸び率となっているほか、医薬品・精製化学品、機械・器具、輸送機器などの拡大があった。

一方で、石油製品、無機・有機・農業化学品は減少している。また、宝石・宝飾品も減少している。これは、ダイヤモンドの主な消費市場である中国や米国での需要が低下し、合成ダイヤモンドの普及により価格も低迷しているためだという。

第10表 インドによる主要な輸出品（上位10品目）

	(単位：100万ドル，%)			
	2022年度		2023年度	
	金額	金額	構成比	伸び率
石油製品	97,326	84,171	19.3	△13.5
機械・器具	33,147	35,432	8.1	6.9
宝石・宝飾品	37,884	32,720	7.5	△13.6
医薬品・精製化学品	25,392	27,857	6.4	9.7
輸送機器	25,010	26,717	6.1	6.8
鉄金属・非鉄金属	23,269	22,579	5.2	△3.0
電子通信機器	12,920	17,268	3.9	33.7
織物用糸・布地	15,495	16,092	3.7	3.9
無機・有機・農業化学品	18,828	15,389	3.5	△18.3
鉄・鉄鋼	13,302	11,851	2.7	△10.9
合計（その他含む）	450,554	437,165	100.0	△3.0

資料：JETRO（2024）より引用。

輸入を品目別にみると、最大である原油が減少しているのに加え、第三位の石油製品が減少したことにより、貿易赤字が縮小した（第11表）。ただしこれは、輸入量がいずれも増加していることから、2023年に原油価格が落ち着いたことに伴って、輸入額が減少したものと考えられるのである。なお、原油の輸入元国として、ロシアの割合が拡大していることも注目される。

一方で、金・銀の輸入が大きく伸びている。インドにおける内需の好調さが分かる。また、スマートフォンなど組み立ての材料となる電子部品の伸びも大きく、国内製造業からの需要が反映されたものと考えられる。

第11表 インドによる主要な輸入品（上位10品目）

	(単位：100万ドル，%)			
	2022年度		2023年度	
	金額	金額	構成比	伸び率
原油	162,069	139,901	20.7	△13.7
金・銀	40,149	51,023	7.6	27.1
石油製品	47,247	39,780	5.9	△15.8
石炭・コークス・ブリケット	49,423	38,879	5.8	△21.3
電子部品	25,121	34,380	5.1	36.9
一般機械	29,923	32,149	4.8	7.4
鉄金属・非鉄金属	25,104	27,151	4.0	8.2
真珠・貴石	30,645	23,826	3.5	△22.3
輸送機器	26,224	21,065	3.1	△19.7
人造樹脂・プラスチック材	21,984	20,688	3.1	△5.9
合計（その他含む）	715,327	675,550	100.0	△5.6

資料：第10表と同じ。

(2) コメの輸出における品目と輸出先国の関係

1) 輸出総量でみるコメの主な輸出先国・地域

2021/22年には中国が163万トンで第一位となっている(第12表)。その他では、隣国バングラデシュが162万トンで続いているのに加え、インドネシアやネパールなどのアジア諸国が上位を占めている。また、ベナン、セネガルなどのアフリカ諸国が多いのも特徴的である。2022/23年もそれほど大きな変化はない。

大きく変わったのが2023/24年である。最大の輸出先国が128万トンのサウジアラビアになったほか、イラクとイランという西アジア諸国が上位を占めるようになった。また、その他ではアフリカ諸国が上位になっている。なお、2022年の碎米、2023年の一般米(バスマティ米・パーボイルド米以外の精米)の輸出規制などに伴い、2023/24年の輸出総量は前年・前々年よりも大幅に減少していることも特徴として挙げられる。

輸出総量で見れば以上のような特徴がある。以下では輸出総量をバスマティ米、パーボイルド米、一般米、碎米に分け、その特徴などを整理する。

第12表 コメの輸出総量の輸出先国(上位10か国)

単位：トン

	2021/22		2022/23		2023/24
中国	1,634,050	ベナン	1,567,500	サウジアラビア	1,283,189
バングラデシュ	1,623,916	中国	1,504,275	ベナン	1,282,333
ベナン	1,525,834	セネガル	1,337,980	ギニア	911,790
インドネシア	1,208,838	コートジボワール	1,211,100	イラク	858,807
セネガル	1,095,929	インドネシア	1,195,991	トーゴ	712,986
ベトナム	912,929	ルワンダ	972,644	イラン	685,905
コートジボワール	903,502	トーゴ	940,287	セネガル	643,935
トーゴ	844,144	ベトナム	933,982	ケニア	621,739
ネパール	764,477	ギニア	910,694	コートジボワール	618,882
ルワンダ	679,643	バングラデシュ	844,057	ソマリア	542,531
その他	9,294,851	その他	10,441,448	その他	7,554,766
計	20,488,113	計	21,859,959	計	15,716,863

資料：第1図と同じ。

2) バスマティ米

バスマティ米とはインドやパキスタンで古くから栽培されている長粒種の一種で、芳香が特徴の香り米のことを指す。カレーとの相性がよく、炊き込みご飯のビリヤニにも使われる。価格は他の品目に比べて高価である。

第13表でこのバスマティ米の輸出をみると、総量では2021/22年に394万トン、2022/23年に456万トン、2023/24年に524万トンとなっており、着実に増加を続けている。コメの輸出総量に占める割合では、19%、21%、33%となっている。

そのバスマティ米は、2021/22年以降、上位10か国で輸出量の81%、80%、78%を占めている。このコメを好んで輸入しているのは、3か年を通してみるとサウジアラビア、イラン、イラク、UAE、イエメン、クウェート、オマーン、カタールといった西アジアの8か国である。バスマティ米の輸出総量に占める西アジア8か国への輸出割合は74%、72%、70%であり、圧倒的に西アジアへの輸出が多いことが分かる。

第13表 インドによるバスマティ米（精米）の輸出先国（上位10か国）

単位：トン

2021/22		2022/23		2023/24	
イラン	998,045	イラン	998,879	サウジアラビア	1,098,042
サウジアラビア	674,601	サウジアラビア	954,734	イラク	824,527
イラク	486,296	イラク	364,064	イラン	670,782
UAE	257,008	UAE	315,516	UAE	308,656
イエメン	205,936	イエメン	289,605	イエメン	307,117
米国	160,895	米国	204,026	米国	234,469
クウェート	147,485	クウェート	156,440	英国	185,544
英国	129,422	英国	143,677	クウェート	179,583
オマーン	77,444	オマーン	112,256	オマーン	164,351
カタール	71,723	ヨルダン	105,737	カタール	115,404
その他	734,730	その他	916,159	その他	1,153,572
計	3,943,584	計	4,561,092	計	5,242,047

資料：第1図と同じ。

3) パーボイルド米

荒井（1971）によると、パーボイルド米とは、籾摺を容易にし、かつ碎米の発生を防ぐという長い間の生活の知恵から生まれた加工法によって作られるコメである。パーボイル処理の目的はインド型米の砕けやすい性質や困難な籾摺を容易にするため、貯穀害虫に対する抵抗性も増してくるといふ。さらに蒸煮処理により米粒内の酵素が破壊されるため貯蔵性を増すことができるようになる。コメは収穫後一年以上経過すると、味や触感が変化してくるが、パーボイルド米として加工したものは2～3年間、その性状は変化しないといわれている。

第14表でこのパーボイルド米の輸出をみると、総量では2021/22年に743万トン、2022/23年に785万トン、2023/24年に757万トンとなっており、堅調に推移していることが分かる。コメの輸出総量に占める割合では、36%、36%、48%となっており、輸出されるコメの中で最も多い。

パーボイルド米は、上位10か国で輸出量の77%、71%、64%を占めている。このコメを好んで輸入しているのは、いずれの年も上位に位置する隣国バングラデシュをはじめ、西部アフリカのベナン、ギニア、トーゴ、コートジボワールなどである。また、東部アフリカのソマリア、ジブチ、南部アフリカの南アフリカ共和国など、大半をアフリカ諸国が占めている。

第14表 インドによるパーボイルド米（精米）の輸出先国（上位10か国）

単位：トン

2021/22		2022/23		2023/24	
バングラデシュ	1,484,816	ベナン	969,161	ベナン	1,169,684
ベナン	1,021,589	バングラデシュ	726,299	ギニア	843,528
コートジボワール	590,734	ギニア	707,227	トーゴ	588,482
トーゴ	582,511	コートジボワール	697,704	ソマリア	507,793
ギニア	489,338	トーゴ	689,634	コートジボワール	486,298
ソマリア	455,313	ソマリア	466,001	ジブチ	286,959
リベリア	345,428	リベリア	383,927	リベリア	248,411
スリランカ	342,693	ジブチ	344,940	シエラレオネ	240,323
ジブチ	237,475	スリランカ	297,422	南アフリカ共和国	238,461
南アフリカ共和国	197,423	シエラレオネ	262,790	ベトナム	235,961
その他	1,686,763	その他	2,303,409	その他	2,724,854
計	7,434,082	計	7,848,514	計	7,570,753

資料：第1図と同じ。

4) 一般米（バスマティ米・パーボイルド米以外の精米）

ここでいう一般米とは、バスマティ米・パーボイルド米以外の精米を指す。

第15表で一般米の輸出をみると、総量では2021/22年に522万トン、2022/23年に640万トン、2023/24年に236万トンとなっている。コメの輸出総量に占める割合では、26%、29%、15%となっている。このように一般米は、2023年7月からの輸出規制により、2023/24年に輸出量・輸出割合が大幅に減少している。

その一般米は、上位10か国で輸出量の65%、63%、72%を占めている。輸出先は、パーボイルド米と同様、アフリカへの輸出が目立っている。ただし、パーボイルド米が西部アフリカを中心とした輸出であったのに対し、一般米はケニア、モザンビーク、マダガスカルなどの東部アフリカを中心としつつ、ベナン、トーゴ、コートジボワールなどの西部アフリカが続いている。また、カメルーンやアンゴラなどの中部アフリカへの輸出量が多いのも特徴的である。その他では、アジア諸国への輸出も多く、ネパール、ベトナム、マレーシアへの輸出量は、2021/22年には一般米の輸出総量の24%を占めている。

第15表 インドによる一般米（バスマティ米・パーボイルド米以外の精米）の輸出先国
（上位10か国）

単位：トン

2021/22		2022/23		2023/24	
ネパール	625,954	ベナン	582,833	ケニア	415,206
マダガスカル	536,660	マダガスカル	555,867	モザンビーク	257,559
ベナン	474,314	ケニア	546,700	カメルーン	172,207
ベトナム	322,833	カメルーン	426,874	ベトナム	159,923
マレーシア	287,308	コートジボワール	422,648	マレーシア	135,854
カメルーン	271,864	モザンビーク	351,177	マダガスカル	121,179
トーゴ	244,660	ベトナム	335,311	トーゴ	119,975
モザンビーク	227,154	アンゴラ	317,492	コートジボワール	114,177
コートジボワール	208,431	トーゴ	245,358	ベナン	105,452
ギニア	173,002	ネパール	218,429	エジプト	85,008
その他	1,847,399	その他	2,398,467	その他	672,551
計	5,219,580	計	6,401,158	計	2,359,090

資料：第1図と同じ。

5) 砕米

砕米の用途はさまざまであり、飼料用やエタノール用に利用されることもあれば、食用として利用されることもあり、地域による差異が大きい。

第16表でその砕米の輸出をみると、総量では2021/22年に389万トン、2022/23年に305万トン、2023/24年に55万トンとなっている。コメの輸出総量に占める割合では、19%、14%、3.5%となっており、全体に占める割合は低下している。これは、2022年9月に砕米の輸出規制が行われたことによるものと考えられる。

この砕米は、上位10か国で輸出量の92%、97%、97%を占めている。輸出先は、2021/22年と2022/23年は中国が多く、砕米輸出の40%を超えていた。それ以外では、セネガル、コートジボワール、ガンビアなどの西アフリカ諸国、ベトナム、インドネシアといった東南アジア諸国、ジブチ、エチオピアといった東アフリカ諸国となっている。2023/24年で見ると中国は上位10か国に入らず、セネガルを筆頭とする西アフリカ諸国が大半を占めるようになっている。

第16表 インドによる碎米の輸出先国（上位10か国）

単位：トン

2021/22		2022/23		2023/24	
中国	1,585,946	中国	1,280,097	セネガル	379,263
セネガル	921,891	セネガル	1,026,109	ガンビア	82,942
ベトナム	344,881	インドネシア	194,124	ベトナム	23,402
ジブチ	244,814	ベトナム	150,526	インドネシア	18,208
インドネシア	208,544	ジブチ	116,541	コートジボワール	15,000
コートジボワール	103,784	コートジボワール	90,133	ジブチ	14,179
ガンビア	75,034	ガンビア	62,765	オランダ	3,282
カメルーン	33,090	エチオピア	15,704	マリ	2,756
ネパール	31,498	ネパール	13,826	ベナン	2,598
ベラルーシ	30,375	アンゴラ	12,089	イタリア	1,318
その他	311,009	その他	87,281	その他	2,296
計	3,890,866	計	3,049,195	計	545,242

資料：第1図と同じ。

4. まとめ

以上、インドからのコメの輸出は、バスマティ米が西アジア諸国中心であり、非バスマティ米がアフリカ諸国中心となっていることが分かった。ただし、非バスマティ米については、アフリカの各地域（特に西部アフリカと東部アフリカ）により求められるコメの品目が異なっていた。

高価な香り米であるバスマティ米は西アジア諸国の富裕層に好まれ、安価で保存期間が長いパーボイルド米は経済成長に伴い需要が増す西部アフリカ諸国に好まれるなど、品目により需要の背景が異なると考えられる。主な輸出先国であるサウジアラビア、ベナン、ケニア、セネガルなどに焦点を絞りつつ、その背景やインドとの二国間関係等を明らかにすることが今後の課題となる。また、本稿では輸出規制について簡単に触れたが、コメの輸出における輸出規制の影響力は大きいだけに、これについてもより掘り下げた分析が求められる。

[引用文献]

- [1] 荒井克祐(1971)「インドのパーボイルドライスの技術」『熱帯農研集報』20:22-26.
- [2] Government of India(2024) Pathways for Shared Progress: India-Africa Economic Cooperation.
- [3] Jayan Jose Thomas, B. Satheesha(2024) India's Rice Exports: World's Food Security Challenges.
- [4] JETRO(2024)「インドの貿易投資年報」. <https://www.jetro.go.jp/world/asia/in/gtir/> (2025年2月24日参照) .
- [5] USDA (2024) Grain and Feed Annual-2024, Gain Report.
- [6] USDA (2024) Dairy and Products Annual, Gain Report.
- [7] USDA (2024) Livestock and Products Annual, Gain Report.